

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年4月23日（水曜日）			開会	14:13	会議場所	別海町議会 委員会室1		
				閉会	16:21				
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 真結美	出席
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	10 番	外山 浩司	出席
	11 番	今西 和雄	出席	15 番	戸田 憲悦	欠席			
委員外の出席	議長	西原 浩					合計	1名	
事務局職員	局長	入倉 伸顕		主幹	木幡 友哉		合計	2名	

### 会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 9番 小椋	14:13 開会・挨拶 開催概要説明 会期1日、出席委員7名、欠席委員1名、委員外1名
委員長 9番 小椋	議事1 議長の諮問に関する事項 ・議長から大きく4点の諮問事項があるので順次協議していく。
委員長 9番 小椋	(1)第3期議会活性化計画の検証と評価 ・重点計画1の議員定数、報酬、成り手不足対策については、現在特別委員会で調査中なので継続とする。 重点計画2の情報発信の向上と議会ICT計画の策定については、YouTube配信の拡大やペーパーレス化の拡大について進めているところだが、議長としては計画を定めてほしいとのこと。 ただし、技術の進歩が目まぐるしいので、計画として定めてしまうと逆に動きが鈍る可能性があるとも考えられるが、調査項目として取り上げるか否かについて意見をいただきたい。 重点計画3の委員会編成の見直しと政策提言サイクルの確立、委員会の総意による質問、予算審査における総合計画との連動についてだが、委員会編成見直しは実施済みであり、政策提言サイクルの確立については、今後委員会協議会の報告から政策提言に結び付けられるような体制づくりを準備中である。 予算審査における総合計画との連動については、北海道大学の神原名誉教授も提案していたが、実現できれば町民も分かりやすいと思う。 いきなりそうするのは無理だが、そこへ向けてどうアプローチしていくのかは考えていく必要があると思っているところ。
委員 8番 田村	・これは決定ではなく、この中から話合いで決めるということか。
委員長 9番 小椋	・そういうことである。
委員 8番 田村	・そういうことであれば、第3期議会活性化計画の検証と評価の項目については、全般として共通認識のもと進められており、あえて取り上げる必要はないと考える。 重点計画2について、ICT計画の策定に関してはまだ段階的に難しい部分かと思う。 重点計画3について、委員会調査を政策提言につなげる流れはいいと思う。ただし、委員会の本来の目的は政策提言ではないので、調査と政策提言の両立で実施することであればいい。今日の議題にもなっている、委員会協議会の報告書の見直しにおいて示されている案に基づき報告内容を充実させることで、おのずと政策提言になっていくと思う。 委員会の総意による質問は、毎回行われるわけでもなく、個人が行うことから、個

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

	<p>人の意見による部分も多いので、バランスを考えながらやっていければいいと思う。</p> <p>なお、最後の予算審査における総合計画との連動の意味が分からないので補足をお願いしたい。</p>
議長 16番 西原	<p>・まず、全般として、実施済みの内容も含まれている。</p> <p>ICT計画に関しては、タイムスケジュールを立て目標を持って進めていく必要があると思っている。</p> <p>政策提言サイクルの確立については、フローを示して誰からでも見えるようにしておくことで、改選後の新人議員にも分かりやすくなると考えている。</p> <p>予算審査における総合計画との連動については、総合計画のどの項目に基づいて組まれた予算なのかを見えるようにすることで審査しやすくなると考えている。</p> <p>現在の第3期議会活性化計画の内容について、すぐに実施できるものもあるし、遠い未来に実施するというものもあるので、改めて後期2年間で実施できるのか、それともこの2年間で足がかりにして第4期計画につなげるのかという整理も含めて点検・評価をしてほしいという意図である。</p> <p>やれるやれないは議会運営委員会の判断に任せるが、そういった意図をくんで調査を検討してほしい。</p>
委員 8番 田村	<p>・総合計画との連動については、各委員会ですでに調査項目として取り上げており、基本計画と実施計画の調査をしっかりと行い、把握することで連動を図っていくものではないかと思う。</p>
委員長 9番 小椋	<p>・このことについては、本年度の当初予算審査に当たり、多くの新規事業が上がってきたが、委員会で調査すべき内容のものが結構あった。予算書を見るまで知らなかったという内容もあった。</p> <p>田村委員の言った内容で完璧に調査が行えていれば理想だが、現実として漏れが出ている。</p> <p>理想は、新規事業が計画されている場合、その内容について事前に委員会調査を行い、その上で予算化されるという流れがいい。可能であれば、そこに政策提言という議会の意思が反映されていることが理想。ただし、現体制ではその実現は難しいので、そこを目指して今後議論していきたいと思っている。</p>
委員 8番 田村	<p>・議会基本条例の第26条の資料要求を実行していればそういうことにはならない。</p> <p>今回資料要求した内容のものを継続して実行していけば分かるのではないか。</p>
委員長 9番 小椋	<p>・(2)にも関わってくるが、第26条の規定だけではよくないと思っている。</p> <p>なぜなら、タイミングが予算審査の直前で、常任委員会で調査ができない。</p> <p>次年度実施事業等の精査が始まる10月頃から常任委員会で調査を行って、概要を把握してから予算の審議という流れが理想だとは思う。</p>
事務局長 入倉	<p>・予算が確定するのは1月下旬頃になるので、委員会に提示するにはそれ以降となるのではないか。</p>
委員長 9番 小椋	<p>・現状はそうだが、理想としては先ほど私が話したとおりかと思う。</p> <p>神原名誉教授が話していた理想は、新規事業も全て総合計画に反映することで誰もが町の実施事業を常に把握できることになる。</p> <p>事業の内容はそこで議決していて、後は予算額についての審査を行うのみという流れ。</p>
事務局長 入倉	<p>・実施計画は総合計画の各項目に紐づけされており、総合計画で定めている事項について実施していく位置づけになっている。</p>

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画を総合計画に記載しようということ。将来そうなればやりやすいという観点からの話である。</li> </ul>
議長	16番	西原	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発端はふるさと交流館のポーリング工事であり、補正予算で計上するので審査はそのときにという認識で、事前には説明されなかった。そういった状況をどう整理したらいいのかということ。</li> <li>以前、予算決算審査特別委員会を設置していなかったときは、常任委員会で調査と審査を両方実施できていたが、今は別になっているので、議案になる前の調査を常任委員会でやるという取組がどうやったらいいのか整理しなければならない。</li> </ul>
副委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会側の体制に矛盾が出てきた。その解消に向けた議論をしなければならない。</li> <li>・議会基本条例第26条も、政策決定する際に議会が必要な要素としての資料を提出してもらおう意図だが、前回の方法では直前まで提出されない。</li> <li>総合計画に紐づいていることは理解できるが、議会の意見が入る余地がないことを解消していきたい。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	
委員	1番	市川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町も議会も町民の利益のためにというベクトルは同じだと思うが、町が事前にこうしていることを考えていて、予算化したいと思っていることを議会に知られることが、町の不利益になることがあるのか。</li> </ul>
議長	16番	西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益・不利益ではなく、決定事項ではないので議会に説明できる段階ではないという考え方になる。</li> </ul>
委員	1番	市川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的には議会が議決して実施可能となるので、事前に内容を十分説明していたほうが、予算審査時にいいのではないかと。</li> <li>本当は良い事業であっても、内容を十分理解できず、疑問を持った議員がいたまま議決するほうがよくないのではないかと。</li> </ul>
副委員長	11番	今西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言っていることは分かるが、町の所管としては、予算決算審査特別委員会という組織があるので、そちらで議論してほしいという体制が出来上がっている。</li> <li>そこから考え直していく必要がある。</li> </ul>
委員	1番	市川	
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別委員会では予算の話だけにして、事業の内容や方向性は常任委員会で話すべきだと思う。</li> <li>・議会は事前に実施内容を知りたい、町は不確定情報は出せないというずれが生じている。</li> <li>案としてこんなことを考えているので常任委員会で相談してみようといった使われ方をする場にしていく必要がある。</li> </ul>
委員	8番	田村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算審査のやり方に変化を付けなければいいだけの話で、例えばこちらからの質問のみではなく、まずは新規事業についての説明をってもらうなどの方法もある。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局、議長とも話したが、例えば定例会の会期を2週間や1か月間として予算決算審査をしっかりと行う手もあると思っている。</li> <li>今のルールのなかで解決していく方法もあるが、だめな場合は、そういった方法について共通認識を持って少しずつ反映していく以外にやり方はないと思う。</li> <li>現状の定例会の会期では、詳しい事業内容を議論する隙間がない。</li> </ul>
議長	16番	西原	
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の代表質問についても定義が曖昧であるが、他の自治体では委員会代表質問制度を作ったことによって、逆に質問をしづらくなったということも聞いたことがあるので、そういった部分について、別海町議会として適した方法を調査してもらいたいと思っている。</li> <li>・政策提言に関しては、委員会の調査報告をしっかりとすることで、議会が</li> </ul>

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

	<p>どう考えているのかを町民や町に見せることで、議会の真剣さを伝えていける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先日、既に1回目の総務産業常任委員会を行い、議題になっている新報告書案に添って協議会を行ったが、流れが明確になった。これを定着させていくことが必要だと思った。</li> </ul>
副委員長 11番 今西	
委員長 9番 小椋	(1)については、出された意見を基に今後進めていければと思う。
委員長 9番 小椋	(2)議会基本条例の点検評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度全体で振り返りを行ったが、今年度も実施したい。</li> <li>第26条の件もあるが、改正にあたっては、改選期の前がいいか考える。</li> <li>活性化計画との整合性も取らなければいけないので、第3期活性化計画の点検評価と併せて進めていきたい。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	(3)議会研修計画の策定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①として、資料に記載の山本教授は防災関係の専門家で昨年度から話題に出ており、今年度講師謝礼の予算化がされている。</li> <li>どういった方法で講演会を行うか決めていくことになる。</li> <li>議長との話し合いでは、せっかくの機会なので、議員のみではなく、町の担当部署の職員にも声をかけて出席を促すのはどうかという話になった。</li> <li>今後、町民も参加できるフォーラム形式の研修会を行うためのトライアル的な開催方法となればよいと思っている。</li> <li>議長から補足があれば。</li> </ul>
議長 16番 西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山本教授はフットワークも軽く熱心な方。仮想の地図情報上に防災情報を落とし込むなどの取組で日常的に防災施設を意識するようになり、非常時に役に立つといった話をされていた。</li> <li>能登半島の調査にも行っており、その話も聞けると思う。</li> </ul>
事務局長 入倉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局でも山本教授とスケジュールを確認しながら、ボリューム的に可能な範囲で役場の担当にもこういった予定をしているが、どうかという投げかけをするイメージで考えている。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災担当にはぜひ参加してもらいたいのので、日程に関しては、防災担当の予定も併せて調整してほしい。</li> </ul>
事務局長 入倉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当部署には必ず出てもらえるように調整をしたい。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・②として、生成AIの研修会についても触れられている。</li> </ul>
議長 16番 西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIは便利なので、活用していくための研修会などができればいいかと思い記載した。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIは非常に便利。使わない手はないが、講師がいるのか。</li> </ul>
委員 2番 吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場職員も使っている。議会も使ったほうがいいと思う。</li> </ul>
議長 16番 西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師は探せばいると思う。</li> </ul>
委員 8番 田村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も使ってみたら確かに便利である。ただ、その前に、この与えられたタブレットを使いこなせるようになるのが先ではないかという気がする。</li> </ul>
議長 16番 西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでもいい。講師を呼ばない内部研修でもいい。じわじわ進めていくのも手段の一つ。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレスの強化も行っていく予定なので、タブレット操作に関する内部研修は必要かなと思う。</li> </ul>
委員長 9番 小椋	(4)新たな議会サポーターの委嘱の検討
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議長からは、神原名誉教授、山本教授、山崎教授といった各大学教授が候補と</li> </ul>

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

		<p>して上げられている。</p> <p>神原名誉教授が受けてくれるのであれば、現サポーターの土山教授、西科氏との接点もあり、影響力のある方。前回の講義でも刺激を受けたので個人的には入っていただけたらありがたいと思う。</p>
委員	8番 田村	<p>・それは分かるが、議会サポーターの設置目的は議会活性化計画の遂行についてであって、現在2名いるが、一般質問検討会議に特化した対応と、ごくたまに意見をもらう程度が現状。途中で3人も増やす必要が本当にあるのか。</p>
委員長	9番 小椋	<p>・今すぐ増やすということではなく、こういう方々がいるが、今後検討してはどうかという案である。</p>
委員	8番 田村	<p>・承知した。議会活性化を図る上で足りない部分を補える人材がいるのなら構わないと思う。</p>
議長	16番 西原	<p>・議会サポーターに関する規定の整理も必要になってくるかもしれないので、それも含めて協議をお願いしたい。</p> <p>記載した3名のみではなく、例えば広報・広聴に関するサポーターというのでもいいのではないか。</p>
委員長	9番 小椋	<p>・ずっと同じ方を委嘱し続ける方法もあるが、4年間だけのスポット的な委嘱の仕方であってもいいと思う。</p> <p>広報・広聴に関しては、毎年、複数名で出張して視察研修を行うのであれば、サポーターとして委嘱し、来ていただいてアドバイスをもらうというのでもいいと思う。</p>
委員長	9番 小椋	14:59 休憩
委員長	9番 小椋	15:03 再開
委員長	9番 小椋	議事2 本会議の会期日程等議会の運営に関する事項
		(1)委員会協議会の報告書の変更案について
事務局主幹	木幡	<p>・以前に報告書の様式や書き方について、見直しの提案があったこと、また、常任委員会からの政策提言サイクルの検討と合わせて、資料4のとおり報告書様式の見直しをしようと考えている。</p> <p>主な変更点としては、これまで会議規則第77条による報告書と記載していたが、同規定は審査や調査が終了したときに、その結果を議長に報告するものであることから、途中経過報告のみの場合、同規定がそぐわないことなどの指摘があったため、その語句を削除し、経過報告書としても、77条に基づく報告書としても活用できるようにしている。</p> <p>また、常任委員会における所管事務調査に係る常任委員会協議会の協議結果の報告書として整理し、常任委員会と、委員会協議会の両方を兼ねた報告書として取扱うこととしたい考え。</p> <p>次に、調査事件及び協議結果の項目について、これまでは、報告内容が委員会ごとまちまちであったことから、調査事件ごとに継続なのか、終了なのかを必ず明記することとしている。</p> <p>また、所管の報告内容をそのまま書くのではなく、委員会協議会で協議した内容を基に、委員会としての考え方を報告するものとして統一したいと考えている。</p> <p>なお、文章の体裁については、神原名誉教授に提供していただいた資料の中から、「議論活性化のための4視点」の項目を参考に例文を用意したので、委員会協議会により合意形成された協議内容の方向性に併せて選択していただき、委員会としての方向性をより明確にしていきたい。</p>

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

	既に新体制での2常任委員会が開催されており、各委員会にはこの案について、事前に情報共有して委員会協議会を行ってもらったところだが、あくまでも案の状態であるので、改めて議会運営委員会で協議し、内容を決定してもらいたい。
委員長 9番 小椋	・これまでも話し合ってきたが、所管からの説明は要点記録で足りるので、この報告書は、委員会としての考え方を記載するためのフォーマットとして整えた。
	意見あるか。
委員 10番 外山	・既に一度この様式で報告書を作成したが、これまでの報告書のイメージが強く、委員会としての意見のまとめが薄かった。次回からはもう少し意図を理解した上で充実した報告内容にしたい。
委員長 9番 小椋	・こういった話があったという内容は不要で、その話に対して、どう考え、どう動くかを委員会内で合意形成して報告するといったことになる。
委員 8番 田村	・この様式の記載例に従って報告書を作成していくことで、今後につながっていくと思う。
	今後の調査方針や目的などをはっきり記すことはいい。
委員長 9番 小椋	・今後この報告書から政策提言につなげていきたいとも考えており、重要性が増していくことになるので、議員間でブラッシュアップしながら活用していきたい。
議長 16番 西原	・今後この報告書の制度が上がってくれば政策提言書として活用できる可能性がある。
委員長 9番 小椋	(2)議会関連提出資料等一覧表の変更案について
事務局主幹 木幡	・前回、議会運営委員会で協議した内容に基づき、会議資料提出方法の変更案を作成した。
	大きな変更点として、定例会及び臨時会における予算書がデータ提出となる。
	なお、予算資料については、当面は従来どおりペーパーで提出してもらうこととしている。
	そのほか、議会運営委員会資料やその他の資料について、不要と考えられる部分についても併せて修正している。
	なお、本内容で問題なければ、6月予定の議員間討議で全議員に周知し、その後、役場の拡大庁議に諮った後に適用する流れが想定されるので、実施は9月定例会からと予想される。
委員長 9番 小椋	・決算関係資料の記載がないが、それらはどうなるか。
事務局主幹 木幡	・記載することとして、併せて検討していくこととしたい。
	予算書は厚さがあり、製本にも多くのコストがかかっているとのことで、同程度の厚さとなる決算書も同様だと思われることから、これも廃止の方向で検討することが予想される。
委員長 9番 小椋	・予算書も当初と補正では厚みも違ってくると思うが、一律の取り扱いとするかも検討する必要があるのではないかと。例えば、補正の場合は予算書も予算資料もデータ提出とするなど。
	・そういった面からも検討してみる。
事務局主幹 木幡	・現段階では説明があったとおりの取扱いでも構わないと思うが、完全ペーパーレスになった場合、補助端末の持込みについて検討する必要がある。
委員長 9番 小椋	・その点に関して、前回、個人の端末持込みという話もあったが、議会でもう1台用意したほうが平等ではないかと考えていたところ。
事務局主幹 木幡	・その点に関して、前回、個人の端末持込みという話もあったが、議会でもう1台用意したほうが平等ではないかと考えていたところ。
委員長 9番 小椋	・効率面では個人のパソコンなどを持ち込んだほうが、いいとは思いますが。

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

	<p>少なくとも今のタブレットまでのスペックはいらない。</p> <p>・これから議場改修を検討していくのであれば、席にモニターを埋め込むことはできないのか。</p> <p>その他いろいろと活用できそうだが。</p> <p>・一つの案として抑えておいてもいいかもしれない。</p> <p>周知期間も含め9月ごろが適切かと思うので、その時期を目指して準備を進めるということにしたい。</p>
委員 2番 吉田	
委員長 9番 小椋	<p>(3)北海道町村議会議長会主催議員研修会への参加委員会の選考について</p> <p>・今年度の開催予定日は7月8日、会場は札幌コンベンションセンターとなっている。</p> <p>今年度からは委員会単位で参加することとなるので、対象委員会を決めていただきたい。</p> <p>・委員会の行政視察も併せて行うこととしているが、委員会構成も変わったばかりで調査も現段階で一度しか行われていないので、視察を要するような課題がまだ見えていないことから、総務産業と福祉文教の両委員長で事前に調整をもらった。</p> <p>結果、今年度は総務産業常任委員会が、来年度は福祉文教常任委員会が参加することとなった。</p>
事務局主幹 木幡	
委員長 9番 小椋	<p>(4)議場・委員会室の設備改修案について</p> <p>・現在、議場のマイク、カメラ、録音設備等の改修を検討しており、無線マイクへの改修と、有線マイクへの改修と、半々のハイブリット改修の3パターンで資料作成を依頼した。</p> <p>費用的には無線マイクが約3,900万円、有線マイクが約3,200万円と、約700万円の差があり、有線のほうが安価となっている。</p> <p>しかし、将来的に委員会の動画配信を視野に入れた場合、一定の台数、無線マイクがあることで、委員会室と兼用することができることを考え、有線と無線の数を約半数ずつにして、無線マイクは委員会室でも使用可能とすることで、マイクの本数を減らすことができ、結果的に約500万円程度費用削減できることから、このハイブリット方式で進めたいと考えている。</p> <p>なお、ハイブリット方式の金額は約3,700万円、委員会室の改修金額は約3,080万円、合計で約6,780万円と、見積ベースではあるが、かなりの高額工事となる。</p> <p>よって、見積書の項目を精査し、不要な設備を削る作業が必要となるが、まずは、主たる計画として、議場のハイブリット改修、プラス、委員会室の動画配信用改修として進めていくことについて、意見を伺いたい。</p> <p>なお、先ほど議席へのモニター設置の意見もあったが、この見積には入っていない。</p> <p>・金額的にモニター設置は厳しいかと思う。議席にコンセントがあればいいのではないのか。</p> <p>委員会室もここまで本格的な設備にしなくてもいいのではないのか。特定の部屋でだけ配信できるようにするなど。</p>
事務局主幹 木幡	<p>・現状は考えうる最大の内容での見積りとしているが、金額精査のため、そういった細かい調整も必要になってくる。</p> <p>簡単に終わる話ではなく、常時協議し続けて最善の方法を見つけていく必要があることから、可能であれば事務局に一任いただくか、どなたかが議会代表となっていたら事務局と一緒に業者との協議に加わってほしい。</p>
委員 一同	<p>・小椋委員長と事務局に一任。</p>

## 令和7年第5回議会運営委員会 要点記録

委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは私と事務局で進めることとしたい。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	
			(5)欠席届の提出と出欠状況の公開について <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年あたりから会議を欠席される方が多く、前もって届出を出していない場合があることから、今一度欠席届や旅行届の提出方法の確認、届出の徹底を図りたいと考えている。</li> <li>また、緊張感を持つためにホームページなどに公開することも考えているが、委員の意見を伺う。</li> </ul>
委員	2番	吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・届出の提出方法はデータでも紙でもどちらでも構わないのか。</li> </ul>
事務局主幹		木幡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は、口頭報告または直接記入による紙での提出で、議長の決裁をもらっている。データで提出していただいても構わないが、逆に手間ではないか。口頭やインワークスでの報告のほうが楽だと思う。</li> <li>なお、事務局的に今の方法が手間であるかと聞かれれば、さほど手間ではない。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正直なところ、無断欠席をなくしたいということがメイン。</li> <li>しっかり届出をしている方にさらに手間をかけさせることは望んでいない。</li> </ul>
議長	16番	西原	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、議会以外の仕事を優先して欠席される方がいるが、それは会議規則上正式な欠席理由にはなっていない。</li> <li>最終的には議長の判断になるが、前提として議会以外の仕事は欠席理由にならないということも徹底したい。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	15:50 休憩
委員長	9番	小椋	16:07 再開
委員		一同	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席理由に関する自由討議。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページでの公開は一度保留、議員としての立場、欠席することができる理由など、規定されている事実を淡々と説明した資料を用意して、次の議員間討議で全体に周知することとしたい。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	議事3 その他
			(1)別海町民生委員推薦会委員の推薦及び承諾について <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉課から依頼があり、3年に一度、議会議員から民生委員推薦委員1名を推薦しているところであり、過去は議長が委員となっていたところだが、この会議の開催予定日が6月10日または11日と、議長不在の日程での開催予定となっていることから、別な方を推薦する必要があるので、人選していただきたい。</li> <li>・戸田副議長推薦。</li> <li>・戸田副議長としたい。本人には事務局から伝えてほしい。</li> </ul>
事務局主幹		木幡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、何かあるか。</li> </ul>
委員		一同	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では私から1点、議会モニターのグループラインを作る予定だが、議員全員をそこに加えると結構な圧になると思うので、広聴小委員会代表の私と、もう1名、モニター経験者の吉田委員に参加してもらいたいと考えているが、いかがか。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は構わない。</li> </ul>
委員		一同	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異議なし。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、私と吉田委員が議会モニターのグループラインに加わることにしたい。</li> </ul>
委員長	9番	小椋	閉会挨拶
委員長	9番	小椋	16:21 閉会